

そばにいるよ



日本福祉大学社会福祉学部 フィールド実践演習

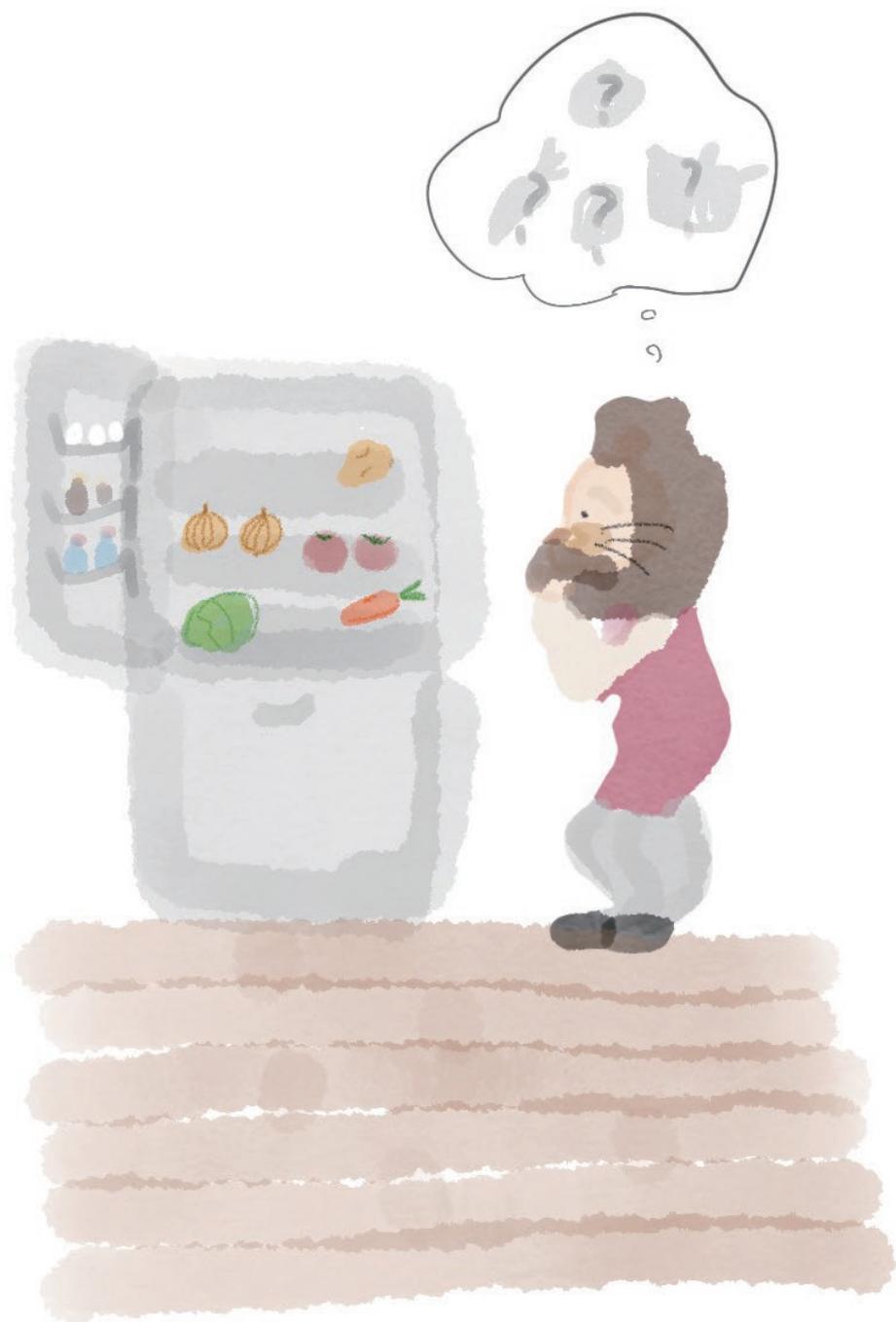
認知症啓発プロジェクト・絵本制作班



ある日のお昼のことです。

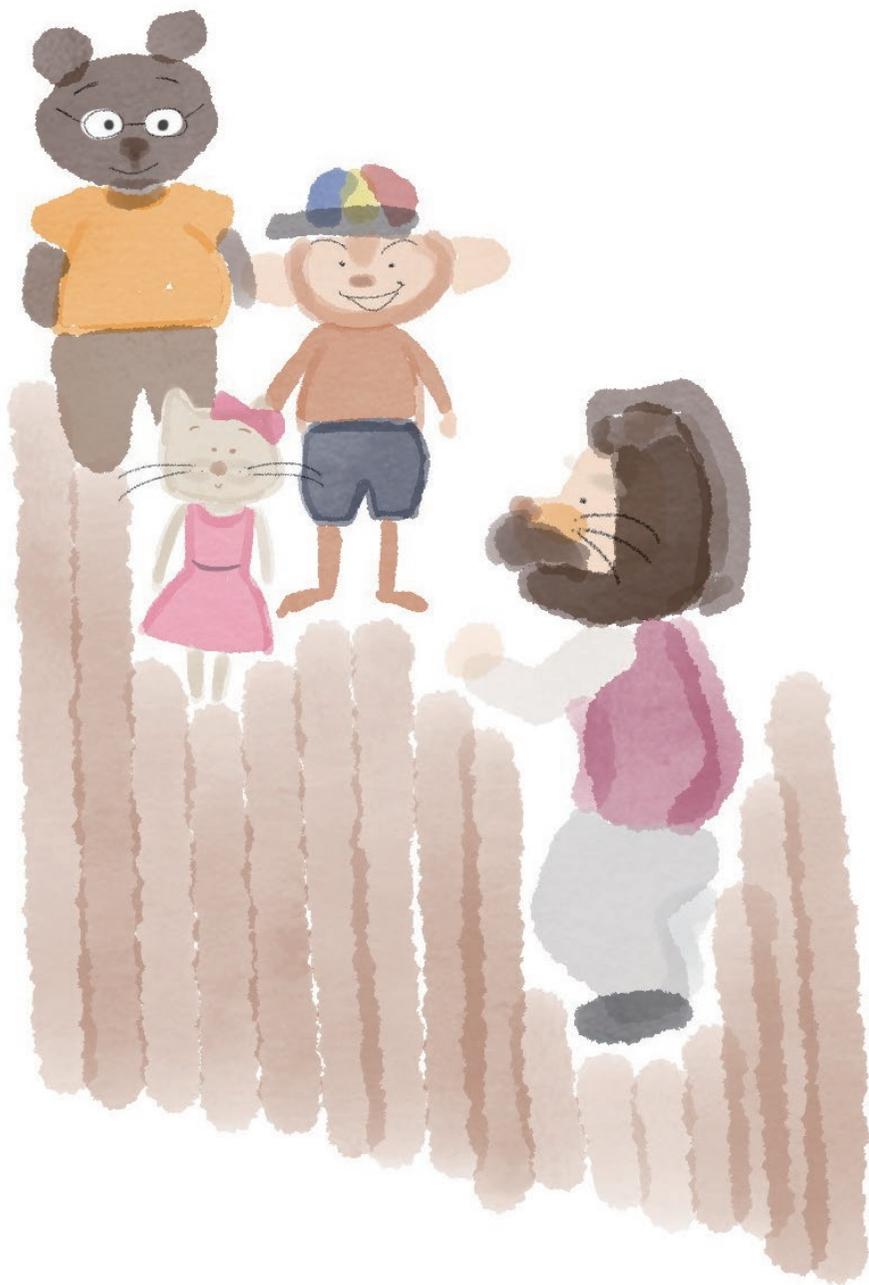
おなかを空かせたおじいさんライオンが
お昼ごはんにカレーを作ろうとしていました。

しかし、こまったことがおこりました。



「あれ、
どのやさいを^{つか}使うか^わ分からないぞ、

あれ、
なべもどこにしまったかなあ？」



そんなおじいさんのところに、
なかよし^{さん}にんぐみ^この子どもたちが
あそびにきました。

「おじいさんこんにちは！」

「おー、ちょうどいいところにきたね、
いま^{ひる}お昼ごはんをつくるからまってなさい」

「やったー！はい」



しかしいくら待^まっても
ごはんは出^でてきません。

「おそいね、ちょっと見^みに行^いこうよ」

キッチンに行^いってみると
おじいさんがこまりはてていました。



「おじいさんだいじょうぶ？」

「すまんの、最近^{さいきん}わすれっぽくて
何がどこにあるのかわからんのじゃ」



「それなら

ぼくたちも^{てっだ}手伝うよ！」

「それは^{あぶ}危ないからだめじゃ！」



しかし、キッチンはぐちゃぐちゃです。

それを見^みた、サルが

「それなら、危^{あぶ}なくないところだけ
手^て伝^だわせてよ！」

と言^いいました。

おじいさんライオンは、

「そうか、

それなら一^{いっしょ}緒^{しょ}にやってもらおうかの」

と言^いい、おじいさんと子^こどもたちで

協^{きょうりよく}力^{りよく}してカレーを作^{つく}ることになりました。



こうして子どもたちはカレーの具材や
なべのじゅんぴ、散らかっているキッチンの
かたづけをしました。

ようやくカレーを作り始めるじゅんぴができ、
おじいさんライオンは

「ありがとう、助かったよ」

と言いました。

すると子どもたちからは

「こまったときはまかせてね！」

というなんともたのもしい返事が
返ってきました。



子どもたちがじゅんびしてくれたおかげで
おじいさんライオンは
カレーを^{つく}作りはじめることができました。

カレーを^{つく}作りはじめたおじいさんライオンは
とても^{てぎわ}手際よく^{りょうり}料理をしています。



「みんなー！できたぞ！」

「わあ！おいしそう！」



カレーはとてもおいしくあっという間に
食べ終わりました。

「おじいさん、とてもおいしかったよ！
またこまったことがあったら
ぼくたちをたよってね！」

「わかったよ、これからもたのんだぞ。
ほら、帰るのがおそくなると
怒られてしまうぞ」

カレーを食べたあと、
後かたづけを手伝ってから
子どもたちは帰っていきました。



そしてある日、
子どもたちはまた
おじいさんのお家^{うち}にあそびにきました。

「おじいさんー！あそ^{あそ}びにきたよー！」

「おお、また来^きてくれてありがとう」



しかし、

子どもたちは^{げんかん}玄関^{はい}に入ってびっくり。

そこにはたくさんのゴミがありました。



「おじいさん、このゴミどうしたの？」

「おお、ゴミの日になったら出そうとおもって、ためてるんじゃ」

「おじいさん、今日がゴミの日だよ！
はこぶのてつだうね！！」

「ほんとう
「本当かい？ありがとう」



こうしておじいさんライオンと
子どもたちは仲良く
一緒にゴミを捨てに行きました。

あとがき

「そばにいるよ」を最後まで読んでくださった皆様へ
認知症の多くは現代医療では治すことができないと
言われています。

そして、若い人でも発症することが知られています。

しかし治せないとしても、周囲が思いやりの心を持って
その手を引くだけで認知症の方にとっての困難を
笑顔に変えることができます。

もしこの絵本を読んでくださったあなたのそばに、
あなたにとってのおじいさんライオンがいたのなら、
ぜひ声をかけてあげてください。

それだけで、あなたが考える認知症という世界が
広がるかもしれません。



そばにいるよ 2020年10月1日

イラスト原案 浦本道久 イラスト作画 佐藤亜美佳

シナリオ作成 清水涼介 前川千秋 編集 仲村和夏

制作 日本福祉大学社会福祉学部 フィールド実践演習
認知症啓発プロジェクト・絵本制作班

協力 株式会社エヌ・エフ・ユー 田中勇介さん・斎藤哲昌さん
日本福祉大学 学園広報室 七原剛義さん
認知症啓発プロジェクトメンバー（社会福祉学部准教授 齊藤雅茂）
デザイナー 木村綾

